

期 昭和五八年四月一日〜五月六日  
於 図書館三階閲覧室(本館)

住吉物語

住吉物語は、作者不明の鎌倉時代の物語で、名称の由来は、女主人公が、継母の悪計を逃れて、住吉の尼の許に身を寄せたところからでているといわれる。  
また、「源氏物語」や「枕草子」などに住吉物語の名がでてくるのであるが、古い住吉物語は、改作の繰り返して散逸し、現存本は、鎌倉時代の改作であるといわれている。黒川春村は、文体歌柄などから承久頃のものと推定しているが、未だ不明である。

(1) すみよし物語

(常磐松文庫)

版本二冊 美濃版 一行書き 絵入 宝暦九年(西暦一七五九年) 京都 梅村三郎兵衛 板  
大正八年(西暦一九一九年) 岡田希雄 朱校合・識語  
寛永九年の刊本と同様、流布本として広く読まれたもので、群書類従に収められているものと同系統の本である。

(2) すみよし物語

(黒川文庫)

写本一冊 美濃版 九行書き 奥書なし 表紙に「契冲校本 岸本由豆流校合」とある。「朝田家蔵印」  
(岸本由豆流)あり。  
岸本由豆流は、幕末の国学者で、寛政元年、伊勢朝田村に、朝田某の子として生まれ、朝田大隅と称したが、のち幕府の弓弦師 岸本讃岐の家を嗣いで、岸本姓を名のる。村田春海の門下、典籍の蒐集家として有名である。



岸本由豆流の印

(3) 住吉物語

(常磐松文庫)

絵巻四巻 一六・五纏 彩色奈良絵 絵数 巻一・五、巻二・七、巻三、四・各六枚。標題、奥書なし  
料紙 鳥の子 布貼表紙(鶴の模様入)  
絵の各場面には、状景の説明が書き添えられている。

(4) 住吉物語

(常磐松文庫)

絵巻二巻 二五・四纏 稚拙な奈良絵風挿絵 絵数 上巻・九、下巻・七枚 標題、巻名、奥書なし  
料紙 鳥の子 布貼表紙(紺地雲形鳥模様)  
絵の場面には、上端、下端に状景の説明がなされ、稚拙であるが、味わい深い小品である。